寺男の独り言です…立夏…

卯の花の　匂う垣根に
時鳥（ホトトギス）早も来鳴きて
忍音（シノビネ）もらす　夏は来ぬ…

「夏は来ぬ」作曲：小山作之助
作詞：佐佐木信綱

ある日、寺男がサロンで鼻歌を歌っていると、和尚が「何…歌ってるの？」との事で、「夏は来ぬ」という歌と説明するも、和尚は知らないとの返事で此処に記す

…紫陽花満開！形よく、色よく…満開！僅か一畳位の場所ですが、チョットした近所の名所…お参りの方達や近所の奥様方が花見に来られます。通学途中の女子高生がスマホで撮影して行く事もあります（笑い）…

駐車場脇に植え込み毎春、白と紫の花を咲かしていたハーデンベルギアですが、残念な事に白だけが枯らしてしまい（イラガがついたのが影響したのか？）で、和尚が新苗を購入して同じ所に植え込みました！和尚に「何色？」と聞くと「解らない」との事（笑い）風雨順時（ふううじゅんじ）季節が季節どおりに来ることを祈る。人間は自然が自然どおりに動いていく、その法則の中で生きていくしかないよう…

寺男が境内にある草花をさし芽等で増やしています…ご希望の方は寺男に声をかけて下さい

寺男・マトバ

ブックレビュー

『教えて、釈先生！
　子どものための仏教入門』
釈徹宗　谷口雅美　共著　　講談社

小学5年生のヒナコ、アオイ、アミール、ハヅキ、リクの5人と、お坊さんの釈先生が問答をくり広げます。「地獄ってどこにあるの？」「死ぬとどうなるの？」など大抵の大人は答えを持ち合わせていない問いにも、釈先生が優しく答えています。

どんなやさしい本にも必ず気づきがあるもので、私はこの本と出会い、新たな宗教観を得ることができた気がします。

宗教というと、『信じる』ことだと考えてしまいがちですが、お寺や教会に行くだけで気持ちが落ち着いたりする『感じる宗教』や、初詣に行ったりクリスマス会をしたりと、無意識のうちの『行う宗教』もあると。これは色んな宗教を許容できる日本人の特性なんですって。日本人は決して無宗教なわけではないと、釈先生は教えます。たしかに、「無宗教です」と言いながら、季節ごとに色んな宗教行事を行っている気がしますよ。そうそう、日曜日を休日にすることも、キリスト教の宗教行事なんですって。知らなかったなぁ。ありがとうございます釈先生！

お寺カフェを計画しています。お寺がみなさんの憩いの場になれば嬉しいです。

住職・宇治田真宣（釋真宣）

森嶋、僧侶になったってよ

出張法話してきましたの巻

先日ご縁を頂き、和歌山市新和歌浦にあるビーチカフェ「バグース」さんでご法話をさせて頂きました。木村屋旅館さんの地下にある、目の前がビーチの素晴らしいロケーションのカフェ。そこでお坊さんがお喋りするというなんとも面白い組み合わせになりました。

僕自身お寺以外の場所でお話しさせて頂くのは初めてだったので大変緊張しました。事前に話の構成を組み、リハーサルをして挑みました！結果、なんとかイメージに近い状態でお話し出来たんじゃないかと思います。善称寺のお朝事でいつもお話を聞いて下さっている方や、さっきまで海で泳いでいたであろう若いお兄さんやお姉さんなど、様々な世代の方に聞いて頂き、貴重な機会となりました。

法話の後も色々な方に声をかけて頂き、ビールもご馳走になりました(お布施!?)。ちょっとしたお悩み相談もあり、濃密な時間を過ごさせて頂きました。そして、最終的に「仏教めっちゃ良いやん！」と言ってもらえて嬉しい限りでした。

僧侶が外へ出向いて行くのも大事だなぁと思わせてもらえた一日でした。このような機会を下さいましたバグースさん、お越し下さいました皆様ありがとうございました。出張シリーズ、個人的にこれから続けたいと思いましたので、お気軽にお声かけ下さいませ！

畑再開しました！昨年は個人で借りてましたが、今年はお寺として借りる事に。水やり頑張るぞ～！

僧侶・森嶋淳哉（釋淳信）

日々のあわ

大学での専攻は心理学だったのですが、一般教養の科目で「文章論入門」という講義を取っていました。20人程度のこぢんまりとした講義で、「2～300字ほどの文章を講義時間内にまとめ、提出された作品を教授が精読していくつかを選んでプリントにして翌週に配布、それを読んで学生が感想や寸評を書き、作者にフィードバックする」という内容だったと思います。書くこと・読むことが好きな私には、なかなか楽しい時間でした。

朴訥とした雰囲気ながら文学への情熱を感じる教授や、彼女からのさっぱりとした寸評も好きだったし、何度か作品を取り上げてもらえたことも嬉しかった。そして、ある時プリントに掲載された私の文章を読んで、「ほんとうにこの文章を書いた人が同じ教室にいるのだろうかと思える」とほめてくれた学生がいたこと。今でもふと思い出しては心がほんのり温かくなります。

その学生は、自分の言葉がいまだに誰かの心を温めているなんて露ほども思わないでしょう。でも、そういう小さな記憶に思わぬ形で支えられることは確かにあって。あなたや、私が紡ぐ言葉には、それほどの力があるのだということを、忘れずにいたい。誰かの心を焼き尽くしたり凍てつかせたりするためではなく、温めるためにこそその力を使いたいものです。

私的夏時間導入のため、起床時間をもう少し早めようと体を慣らしているところ。5時の壁がなかなか超えられない、朝に弱い私です。

坊守